

第46回 『あいおの会』

- 失語症友の会 -

1、「失語症友の会」とは

失語症とは、脳卒中や事故などの後遺症によって、言葉を操る能力に障害が残った状態をいい、聞く・話す・読む・書くことすべてに影響を及ぼします。このような失語症の方に対して、言語聴覚士が中心となり、個別の訓練・支援をおこなっております。

失語症の多くの方は、日常の何気ない会話が不自由になり、仕事や趣味活動など、社会活動への参加が難しくなります。そこで、熱海・伊東地区では、失語症の方々のコミュニケーションの機会を作り、交流を深めるという目的で、平成18年7月より「失語症友の会」を開催しております。会には国際医療福祉大学熱海病院と熱海所記念病院の言語聴覚士や患者様のご家族も参加しております。

2、第46回「あいおの会」

平成27年8月2日(日)国際医療福祉大学熱海病院にて、外はうだるような暑さでしたが失語症患者様5名とご家族様2名、言語聴覚士6名が参加し12名の方々が集まりました。

今回は、「うちわづくり」「夏の言葉クイズ」の2つを行いました。うちわづくりでは、夏にちなんだ「浮き輪」や「朝顔」などの夏に合う絵柄をそれぞれうちわに貼り付けました。

夏の言葉クイズでは、文字を穴埋めして夏の言葉を完成してもらいました。皆様の夏の思い出話で盛り上がりましたね。お茶菓子は暑い季節にぴったりのアイスクリームを食べました。最後には、皆さんで元気よく「我は海の子」「炭坑節」を歌いました♪

まだまだ暑い季節は続きますが、お身体に気を付けてお過ごしくださいね。

次回は **10月4日(日) 13時**に予定されています。



それぞれお好みの絵をうちわに貼っています。

夏にちなんだ言葉を皆さんで考えています。